

# 令和元年度 学校評価結果報告書(年度末評価)

様式 4	令和元年度自己評価シート(年度末評価) .....	1
様式 5	令和元年度自己評価シート(年度末評価まとめ) .....	6
様式 7	令和元年度学校関係者評価シート(年度末評価) .....	7

広島県立佐伯高等学校

令和元年度自己評価シート（年度末評価）

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
<b>1 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる。</b>							
①深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業が推進され、生徒の意識・行動が変容している。	生徒授業アンケートにおける肯定的回答率	88%	86%	83%	C	・生徒による第1回授業アンケートの肯定的回答率 83% で前年度及び目標値より下がっている	教務 教科
	自分から進んで学んでいると回答した生徒の割合	86%	85%	81%	C	・自分から進んで学んでいると回答した生徒の割合：81%	
②常に学び合う協働的な教職員チームとして、自らの資質・能力の向上を図っている。	授業公開回数(回/人)	2.1回	2回	1.1回	C	・一人あたりの授業公開回数は、年間1.1回で目標値を下回った。	教務 教科
	校内協議会参加人数(年間平均)	4.1人	5.3人	1.5人	D	・予定(20回)の15%の3回の協議会しか開催していない。20回の平均参加人数は1.5人と目標値を大きく下回った。	
③生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、組織的に取り組む。	進路指導部による全生徒面談(回/年)	2回	2回	2回	A	・進路指導部による個別面談を生徒1人あたり年間2回行い、目標を達成した。	進路指導 学年
	進路検討会議(回/年)	2学年1回 3学年1回	2学年1回 3学年2回	2学年1回 3学年1回	C	・2学年進路検討会議を1月に実施した。3学年進路検討会議を5月に1回実施したが、2回目は実施しなかった。	
	希望進路達成率	100%	100%	100%	A	・3年生 生徒全員が、希望する進路を達成した。	

評価基準	A：目標を完全に達成した。	B：目標を概ね達成した。
	C：目標をあまり達成できなかった。	D：目標をまったく達成できなかった。

【評価結果の分析】

【教務部】

○生徒による第1回授業アンケート結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
自分から進んで学んでいる	91	77	77	81
課題解決学習に積極的に取り組む	87	80	86	84
グループやペア学習は理解が深まる	96	91	77	89
誤答の理由を確かめて考える	83	77	68	76
以前より学力が付いたと感じる	74	71	86	76
どのような順番で説明すると良いか考える	96	91	82	90
全学年平均				83

○第2回授業アンケートは3月実施予定であったが、実施できなかった。

○「自分から進んで学んでいる」と回答した生徒の割合は、目標値の80%を上回った。また、「グループやペア学習は理解が深まる」の項目では、ほぼ90%となっており、本校の授業スタイルはもとより、「一人残らず」生徒の学びを見とる授業実践が定着して、高評価につながったと考えられる。一方、それ以外の項目では、学年によってばらつきが見られ、全体平均では83%となった。

○校内授業研究会は計画通りには開催できなかった。学校内外の諸行事への対応もあるが、教員の意識が薄れていたことにも原因があると考えられる。校内授業研究の意義について再確認が必要である。

【進路指導部】

○令和2年3月卒業生 進路状況（令和2年3月1日現在）

区分	進路先
大学	比治山大学現代文化学部、安田女子大学教育学部、日本体育大学体育学部、日本経済大学経営学部、広島経済大学経済学部
専門学校	広島コンピュータ専門学校ビジュアルデザイン科、広島情報専門学校情報システム専門科、広島医療保健専門学校 理学療法学科、広島県立広島高等技術専門学校 建築インテリア科、広島リゾート&スポーツ専門学校 スポーツトレーナー科、広島市医師会看護専門学校 高等課程 准看護科、広島県立広島高等技術専門学校 板金加工科、広島製菓専門学校 洋菓子科、岩国 YMCA 国際医療福祉専門学校 介護福祉学科、広島美容専門学校 美容科、専門学校 ESP エンタテインメント大阪 広島コンピュータ専門学校ビジュアルデザイン科
公務員	陸上自衛隊自衛官（自衛官候補生）
就職	株式会社イング、株式会社マルニ木工

○進路指導部による全校生徒の面談を年間2回以上行い、各生徒の進路希望を把握した上で、担任と連携して、個々に応じた進路情報の提供や指導を行った。

○「進路のてびき」を新しい入試システム用に改訂し、各学年ゼロ学期の段階から、全教員が協力して組織的・計画的な進路指導を行う体制を整えた。

○2学年及び3学年の生徒の「進路検討会議」を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有し、一人一人の生徒と向き合い、組織的・計画的に進路指導を行った。

○学力向上プロジェクトを組織し、国英数の3教科について放課後の補習を実施、約10名の生徒が自主的、継続的に参加し、これら生徒の模擬試験の得点が上昇してきた。

【今後の改善方策】

【教務部】

○89%の生徒が「グループやペア学習は理解が深まる」と回答しているように、本校における生徒の主体的な学びを促す授業づくりは一定の成果を上げている。今後もこの取組を継続して

推進していく。

- 教職員の研修の場である授業研究や研究協議会の機会を確保していくことが重要である。また学識経験者を招聘した授業研究会を次年度も実施し、その指導を取り入れながら授業研究を推進していきたい。

【進路指導部】

- 新しい入試制度について、状況が二転三転する中で、常に最新の情報を収集し、精査した正しい情報を発信することで、生徒の迷いを払拭し個々の適性に合った、組織的・計画的な進路指導を推進していく。
- 就職した卒業生の離職者が一定数いるため、就職希望者の職業選びの指導を、さらに慎重に行う必要がある。

2 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育成する。

①自律心を育み、規範意識を考え実行できる能力・態度を育成する。	生徒指導上の遅刻0回の生徒の割合(年間)	80%	90%	59%	D	・今年度は通院等も含めてすべての遅刻を生徒指導の対象としたため、例年より増加した。	生徒指導 保健
	特別な指導対象者数(年間)	14人	0人	9人	D	・目標値0人を達成することができなかったが、別室指導は0人であり、概ね軽微な問題行動であった。	
②生徒会活動、部活動、地域貢献活動等を活性化し、自己肯定感を高め、地域を愛する生徒を育てる。	主体的に学校行事等に参加したと考へる生徒の割合	94%	92%	84%	C	・目標値より8%下回った。特に3年生の肯定率が低下した。	生徒指導 保健 学年
	自己に対する肯定的評価している生徒の割合	88%	80%	82%	A	・目標値より2%上回った。クラスの間関係の改善のためか、特に2年生の肯定率が上がった。	
③異文化交流等を通じて、グローバルマインドを向上させる。	異文化交流等の実施回数	姉妹校受入1回	姉妹校訪問1回	姉妹校受入1回	B	・1年生1名の生徒がオーストラリアのホームステイに応募し選考された。 ・1年生1名がアメリカ留学を希望し「トビタテジャパン」応募した。	進路指導
④特別支援教育の視点をもった教育活動を推進する。	特別支援に係る研修会開催回数(年間)	3回	3回	2回	B	・特別支援教育として職員会議等で情報共有を図った。校務運営会議において、特別支援に係わる協議を継続して行った。	生徒指導 保健

【評価結果の分析】

【生徒指導・保健部】

- 「遅刻は遅刻」という方針のもと、全ての遅刻で「振り返り文」を記入させるなど遅刻指導を行った。そのため指導対象としての遅刻数は増加した。
- 特別な指導対象生徒0人の目標を達成することはできなかったが、別室指導等重大な問題行動を未然に防ぐことができた。
- 第1回生徒アンケート（9/12実施）結果の肯定的回答率（%）

質問項目	1学年	2学年	3学年	平均
①学校行事は、自分から進んで参加する	82	86	68	80
②学校でみんなと一緒に活動する事は楽しい	88	92	82	88
①②全学年平均				84
自分の良さは、周りの人から認められている	74	88	77	82

【進路指導部】

- 姉妹校受入及び姉妹校訪問を各1回実施した。どちらも生徒に好評であった。
- 留学について意識する生徒が増え、1学年生徒1名がオーストラリア短期留学に決定した。留学を希望する生徒はこのほかにもおり、徐々に増えてきている。

【今後の改善方策】

【生徒指導・保健部】

- 日常的に生徒との個別面談を実施するとともに、毎週開催している生徒に係る連絡会議をより充実させて、教職員間の情報共有を密に図り、組織的な生徒の指導を行う。
- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができる機会を増やし、その努力を評価する機会を設定するなど、積極的な生徒指導の視点をもった取組を推進する。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の支援計画・指導計画に基づいて、生徒の心身両面にわたる支援を行う。

【進路指導部】

- ネット上にあふれる多くの情報の中から正しい情報を精選し正しい判断のできる、情報処理能力を身に付けさせる必要がある。

3 地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。							
①中学校との連携や魅力的な広報活動を通して、生徒の募集に努める。	オープンスクールの参加者数	72人	70人以上	102人	A	・オープンスクール参加者数：102名（佐伯中向けプレオープンスクール52名、オープンスクール50名）	総務
	オープンスクール参加者アンケートによる満足度の割合	100%	85%以上	100%	A	・参加者アンケートによる満足度の割合 学校説明：100% 模擬授業：100%	
②学校教育活動について、タイムリーな情報発信を行い、計画的かつ丁寧な広報に努める。	ウェブサイトの月当たり平均更新回数	6回	10回以上	9.25回	A	・新設の「校長のつぶやき」や、クラブ活動の報告等に加え、きめ細かな学校からの情報発信を行った。	
③働きやすい職場環境づくりを目指し、組織的・継続的に業務改善を推進する。	業務改善に取り組んだ件数	5件	5件以上	5件以上	A	衛生委員会等を通して業務改善について協議を継続した。	全分掌

#### 【評価結果の分析】

##### 【総務部】

- 6/29（土）のオープンスクールに加え、5/24（金）に佐伯中学校の3年生全員を対象としたプレオープンスクールを実施した。昨年度に引き続き、生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実を図った。また、県内全中学校へPR郵送を行うとともに、積極的な広報活動を行った。
- オープンスクール参加者アンケートによる満足度も100%となり、「不満・やや不満」と回答したアンケート項目は全くなかった。

##### 【全分掌】

- 具体的な業務改善の取組として、①職員朝礼資料の電子閲覧によるペーパーレス化、②職員室等の書棚や保管庫の整理による執務環境の改善、③会議資料を格納するフォルダの整理、④校内共有フォルダの整理、⑤校内共有フォルダ（データ受け渡し）の活用、⑥行事後の職員、生徒へのアンケートによる次年度の行事計画への反映、⑦組織的な生徒指導体制の検討・構築を行った。

#### 【今後の改善方策】

##### 【総務部】

- 地元中学校との連携を図り、生徒が主体となるオープンスクールを継続して実施する。
- 本校の魅力をPRし、生徒の募集に努める。また、今年度の課題を踏まえ、年度当初から企画・運営体制を構築し、工夫と改善を加え、より充実したものにする。

##### 【全分掌】

- 今後も効率的な会議運営や業務の見直しを進めるとともに、風通しがよく、働きやすい職場環境づくりを推進していく。

## 令和元年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤 哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	-------	-----	----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

- ・第1回授業アンケートから、「自分から進んで学んでいる」と回答した生徒の割合が、目標値の80%を上回った。また、「グループやペア学習は理解が深まる」の項目では、ほぼ90%となっており、本校の授業スタイルはもとより、「一人残らず」生徒の学びを見とる授業実践が定着してきていると考えられる。
- ・卒業生全員の希望進路を実現できた。これには、各生徒の進路希望を把握、担任との連携、個々に応じた進路情報の提供や組織的・計画的に進路指導を行ったことが希望進路実現率100%につながったと考えられる。
- ・学力向上プロジェクトを組織し、国英数の3教科について放課後の補習を実施した。約10名の生徒が自主的、継続的に参加し、これら生徒の模擬試験の得点が上昇してきた。
- ・特別な指導対象生徒0人の目標を達成することはできなかったが、別室指導等重大な問題行動を未然に防ぐことができた。
- ・姉妹校受入及び姉妹校訪問を各1回実施した。どちらも生徒に好評であった。
- ・留学について意識する生徒が増え、1学年の生徒が1名がオーストラリア短期留学に決定した。留学を希望する生徒はこのほかにもおり、徐々に増えてきている。
- ・自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合が増加した。これにはクラスの間関係の改善が影響している。
- ・通常のオープンスクールに加え、佐伯中学校の3年生全員を対象としたプレオープンスクールを実施した。昨年度に引き続き、生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実を図った。また、県内全中学校へPR郵送を行うとともに、積極的な広報活動を行った。オープンスクール参加者アンケートによる満足度は100%となった。
- ・業務改善について、いくつかの改善を図ることができた。

## (2) 課題

- ・校内授業研究会が計画通りには開催できなかった。学校内外の諸行事への対応もあるが、教員の意識が薄れていたことにも原因があると考えられる。校内授業研究の意義について再確認が必要である。
- ・「遅刻は遅刻」という方針のもと、全ての遅刻で「振り返り文」を記入させるなど遅刻指導を行った。そのため指導対象としての遅刻数は増加した。
- ・生徒指導について特別な指導対象生徒0人の目標を達成することはできなかった。
- ・学校行事について、「主体的に学校行事等に参加した」と考える生徒の割合が低下した。特定の学年において肯定的評価が低くなっているため、原因を探り改善を図る必要がある
- ・年度当初から企画・運営体制を構築し、工夫と改善を加え、より充実したものにする。

## 2 今後の改善方策

- ・89%の生徒が「グループやペア学習は理解が深まる」と回答しているように、本校における生徒の主体的な学びを促す授業づくりは一定の成果を上げている。今後もこの取組を継続して推進していく。
- ・教職員の研修の場である授業研究や研究協議会の機会を確保していくことが重要である。また学識経験者を招聘した授業研究会を次年度も実施し、その指導を取り入れながら授業研究を推進していく。
- ・常に最新の情報を収集し、個々の適性に合った、組織的・計画的な進路指導を推進していく。
- ・就職した卒業生の離職者が一定数いるため、就職希望者の職業選びの指導を、さらに慎重に行う必要がある。
- ・日常的に生徒との個別面談を実施するとともに、毎週開催している生徒に係る連絡会議をより充実させて、教職員間の情報共有を密に図り、組織的な生徒の指導を行う。
- ・学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができる機会を増やし、その努力を評価する機会を設定するなど、積極的な生徒指導の視点をもった取組を推進する。
- ・特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の支援計画・指導計画に基づいて、生徒の心身両面にわたる支援を行う。
- ・オープンスクールについて、地元中学校との連携を図り、生徒が主体となるオープンスクールを継続して実施する。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・生徒指導部の目標値の設定に課題がある。遅刻については、生徒指導上の課題のある遅刻と病院への通院等やむを得ない遅刻とに分ける必要がある。
- ・校内授業研究とその協議を充実させ、生徒指導や特別支援教育に役立てることができるよう再構築する。
- ・学校の良いところをPRできるように、授業や行事における取組を行う。

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤 哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値の設定が高い項目がある。どのような項目であっても85%をクリアしていれば「A」になるように、前年度数値を参考にして目標値を設定するとよい。</li> <li>・学校を取り巻く様々な環境の分析を明確にされ、適切な目標設定をしているが、達成目標値の設定が高い。達成目標値の設定を適切にするように改善が必要である。</li> <li>・分掌によっては目標設定が甘いものがある。これらはもう少し高く設定する必要がある。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値が高いのでおのずと評価が厳しくなる。実状はとても頑張っておられると思います。</li> <li>・計画の進捗状況は適切に数値化されていて妥当である。</li> <li>・適切な評価になっているものと、検討が必要なものがある。</li> <li>・オープンスクール等を早くに取り組み、よい方向で展開している。とても適切である。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね適切と思う。遅刻の扱いについては再考された方がよい。</li> <li>・目標達成に向け真摯に取り組んでいる。</li> <li>・目標に向けた取組は適切である。</li> <li>・主体的な取り組みにより、適切になりつつある。</li> <li>・学校経営計画の基本にある主体的な学びを通して生徒の夢や目標の実現に向けて懸命に努力して社会人としての基礎的人間力を身に付けてほしいとを育て地域から信頼される学校を目指して地域とつながって頑張っている。適切である。</li> <li>・女子野球、アーチェリー等特色のある佐伯高校を目指している。勉学、部活動へのさらなる取り組みを期待している</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果の分析は数値をあげて明快であるが、達成目標値に課題があるので分析が適切といえない。</li> <li>・生徒指導を組織的に取り組むように年度当初に共通理解を図りたい。</li> <li>・概ね適切である。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善方策は具体的に書かれているが、数値目標をあげて方向性をより明確にする必要がある。</li> <li>・概ね適切であると考えられるが、達成目標値の設定に改善が必要である。また、全教職員が共有できるように、今後の改善方策のより具体的な策定が望まれる。</li> <li>・主体的な学びを促す授業づくりを一段と定着させ、生徒に力をつけさせてほしい。</li> <li>・特別支援教育の視点をもった教育活動をさらに推進してほしい。</li> <li>・いろいろな課題を考えて対応を考えている。とても適切である。</li> <li>・学校や地域で挨拶ができる生徒を育成してほしい。</li> </ul>
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校がとても落ち着いていて、生徒もしっかり学習している。次年度もさらに中高連携を行い、地域で子供を育てる取組を充実させていただきたい。</li> <li>・学校としての機能が上手く回るようになってきている。校長のリーダーシップが発揮され活性化してきた。教員の自主性が見られるので、生徒を授業でしっかりと伸ばしてほしい。部活動についてもアーチェリー部を軸に女子野球部も頑張っている。</li> <li>・概ね適切であると考え、生徒指導面で達成目標値の設定に多少改善が必要である。また、教職員が共有できるように、今後の改善方策のより具体的な策定が望まれる。</li> <li>・生徒の希望通りの進学、就職がなされ成果が上がりつつある。</li> </ul>